

臨床検査に関するお知らせ

株式会社セントラル医学検査研究所／No. 2007-R28

先生各位

平成 19 年 12 月

A-07-10

新規受託項目のご案内

拝啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。
また、平素は格別なご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
この度、下記項目につきまして、新たに検査受託を開始いたしますので、ご利用
いただきたくご案内申し上げます。

敬具

記

◆ 受託開始日 平成 20 年 1 月 5 日（土）ご依頼分より

◆ 検査要項

検査項目名	抗 p53 抗体
項目コード	11740
検体量	血清 0.2 ml
検査方法	ELISA
基準値	1.30 U/ml 以下
所要日数	3～10 日
実施料	170 点
判断料	生化学(Ⅱ) 135 点

血清抗 p53 抗体は、p53 遺伝子異常を反映する自己抗体を検出する新しい腫瘍マーカーで、
食道癌、大腸癌、乳癌などの早期癌に有用です。

(詳細は次面をご覧ください)

<抗 p 5 3 抗体>

抗 p53 抗体の出現と p53 遺伝子の変異は非常に高い相関があることが示されています。正常細胞には p53 蛋白質はごく微量しか存在しませんが、p53 遺伝子に突然変異が生じることにより半減期が延長し、変異 p53 蛋白質が細胞核内に蓄積することが示唆されています。

そこで、抗 p53 抗体の出現は腫瘍細胞における p53 遺伝子の突然変異あるいは p53 蛋白質の細胞内への蓄積の結果であることが予測されています。いくつかの臓器では p53 遺伝子の突然変異は癌化の初期に起こることが推測されていることから、p53 遺伝子の突然変異と相関の高い抗 p53 抗体を検出することにより早期癌の診断が可能になることが考えられます。

特に食道癌では従来有用な腫瘍マーカーが存在していませんでしたが、抗 p53 抗体は早期食道癌でも高い陽性率を示します。癌患者の 20~30%において血清中の抗 p53 抗体が陽性ですが、他の腫瘍マーカーと陽性の重なりが少なく、組み合わせにより陽性率が上昇します。これらのことから、臨床上有用であると考えられます。

◆ 疾患との関連

食道癌、大腸癌、乳癌

◆ 関連する主な検査項目

各種腫瘍マーカー

◆ 保健請求上の注意

(ア) 血清中抗 p53 抗体は、区分「D009」腫瘍マーカーの「9」の BCA225 精密測定に準じて算定する。

(イ) 血清中抗 p53 抗体測定は、食道癌、大腸癌または乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月 1 回に限り算定できる。

<抗 p 5 3 抗体と他腫瘍マーカーの組み合わせによる陽性率>

下表に示す腫瘍マーカーと抗 p53 抗体を組み合わせ測定したときに、下記の臓器癌にて陽性率が上昇する結果が得られました。

臓器癌種	測定症例数	腫瘍マーカー陽性症例数 (陽性率)						
		単独測定			2項目測定			3項目測定
食道癌	127	p 53 抗体	シフラ	SCC	p 53 抗体 + SCC	SCC + シフラ	p 53 抗体 + シフラ	p 53 抗体 + SCC + シフラ
		42 (33%)	27 (21%)	38 (30%)	66 (52%)	53 (42%)	56 (44%)	75 (59%)
大腸癌	81	p 53 抗体	CEA	CA19-9	p 53 抗体 + CEA	CEA + CA19-9	p 53 抗体 + CA19-9	p 53 抗体 + CEA + CA19-9
		15 (19%)	28 (35%)	15 (19%)	39 (48%)	31 (38%)	31 (38%)	42 (52%)
乳癌	20	p 53 抗体	CEA	CA15-3	p 53 抗体 + CEA	p 53 抗体 + CA15-3	CEA + CA15-3	p 53 抗体 + CEA + CA15-3
		4 (20%)	4 (20%)	3 (15%)	8 (40%)	6 (30%)	7 (35%)	10 (50%)

(マーカー資料)